

東京湾海況情報 27-7

東京湾水質調査結果（平成27年10月）

（平成27年10月28日発行）

千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 〒 293-0042 富津市小久保3091
 TEL 0439-65-3071
 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 10/5：内湾（ふさなみ）、10/14：内房海域（ふさみ丸）
 関東・東海海況速報（10/14）、東京湾口海況図（10/14）
 モニタリングポスト10/5：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁）

【 水温・塩分の状況 】

内湾の表層水温(図1)はおおむね22℃台で、全域でほぼ平年並みでした。塩分は先月低塩分状態であった西側も回復し、ほぼ全域で30～32台になりました。

内房海域の表層水温は20～21℃台で、平年より約1～2℃低めでした。塩分は32～33PSU台で、内房北部では平年よりやや高めになっていました。

縦断ラインの水温・塩分の鉛直分布(図3)では、水温、塩分とも内湾中央部の水深15m以深で成層状態になっていました。

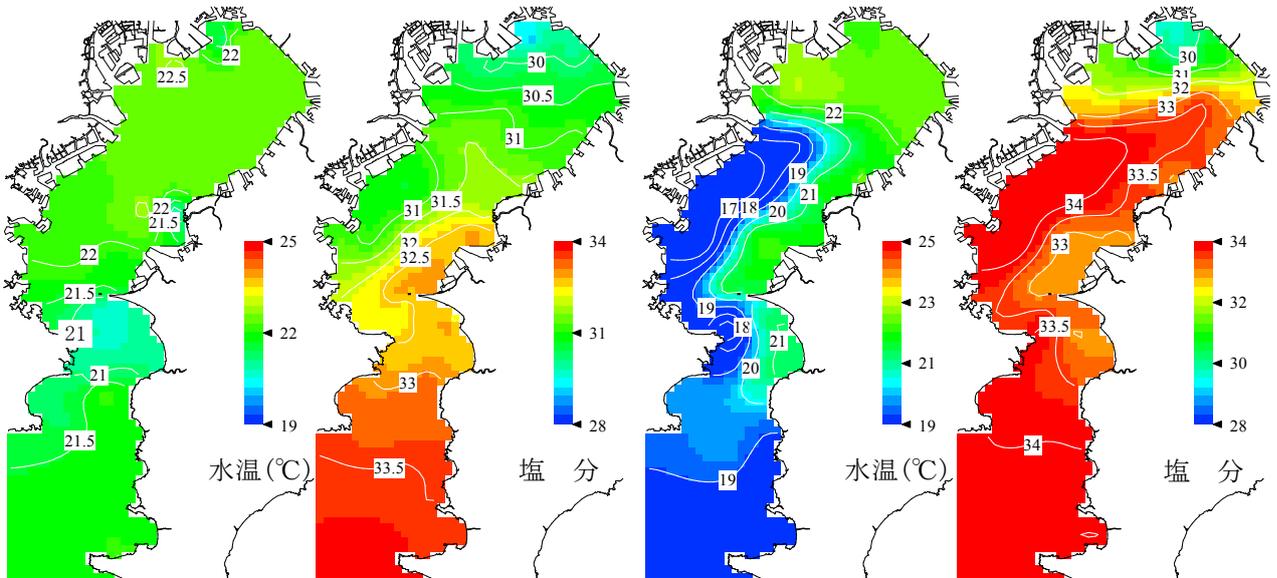


図1 水温・塩分分布（表層）

図2 水温・塩分分布（底層）

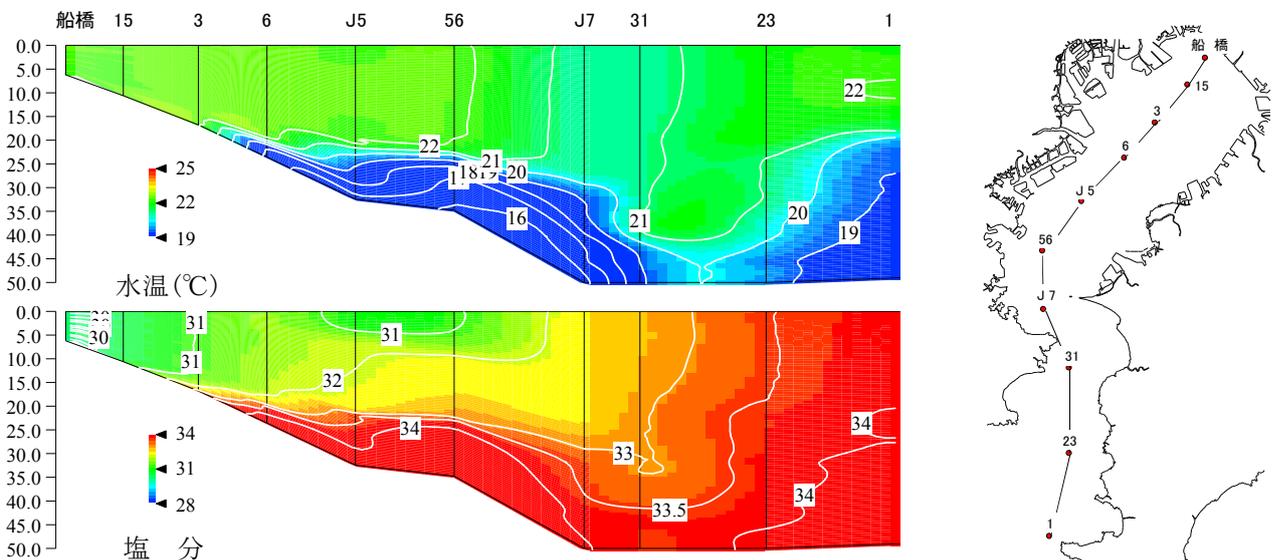


図3 縦断ラインの水温・塩分の鉛直分布(上：水温、下：塩分、右：調査ライン)

【 赤潮の状況 】

赤潮はアクアライン以北の海域で発生し、京葉シーバース付近ではpH8.5~8.6、透明度2m前後で、水色も褐色を呈する程のやや濃い状態でした。

優占種は渦鞭毛藻のケラチウム(*Ceratium furca*)で、その他にケイ藻のスケルトネマ(*Skeletonema* sp.)がやや多くみられていました。内湾北部では魚介類などに被害を及ぼすカレンアミキモトイ(*Karenia mikimotoi*)がみられました。

一方、保田から富浦にかけての周辺海域ではプランクトンは少なく、ケイ藻類がみられる程度でした。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。

色	: オリーブ~褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 μ g/L以上

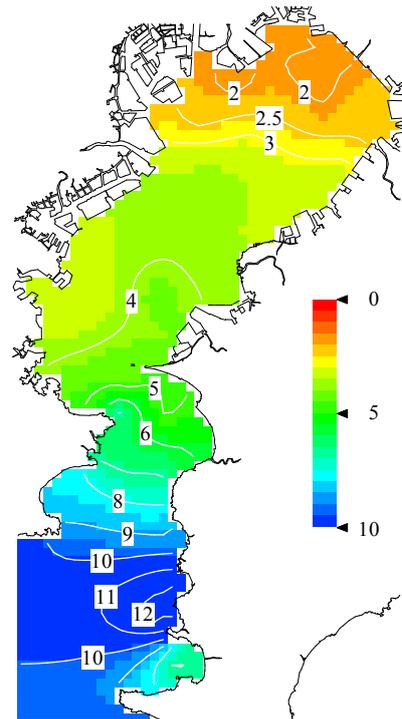


図4 透明度の分布 (m)

【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5, 6)は北部海域の東側で低く、やや弱い貧酸素水塊が分布していました。

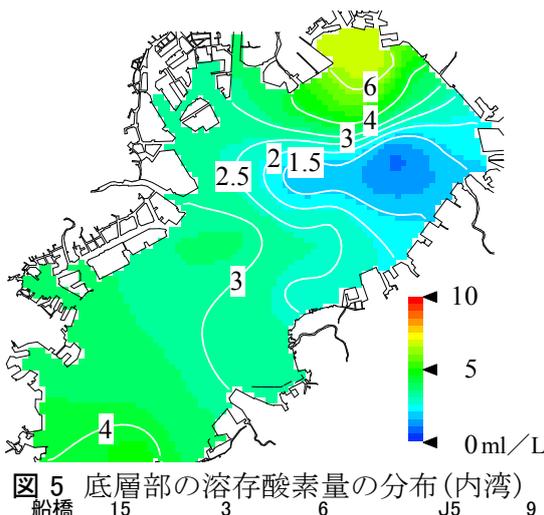


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

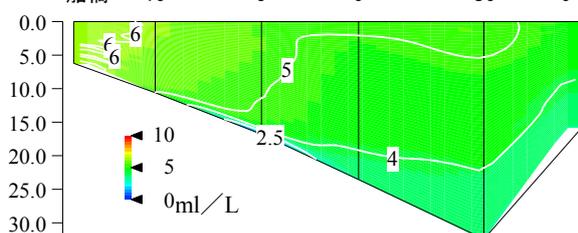


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L(酸素飽和度50%)以下を貧酸素水塊としています。

【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩(図7)は溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン(PO_4-P)とも平年並みから少なめになっています。

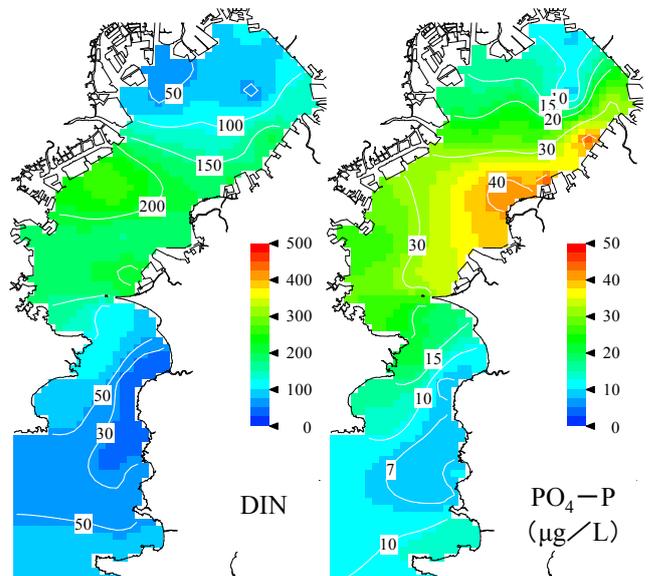


図7 栄養塩濃度の分布(表層)

【黒潮の状況】

黒潮はC型基調で推移し、その流軸は14日現在八丈島の南側を大きく迂回した後、房総半島南東岸を離岸しながら北上しています(図8)。

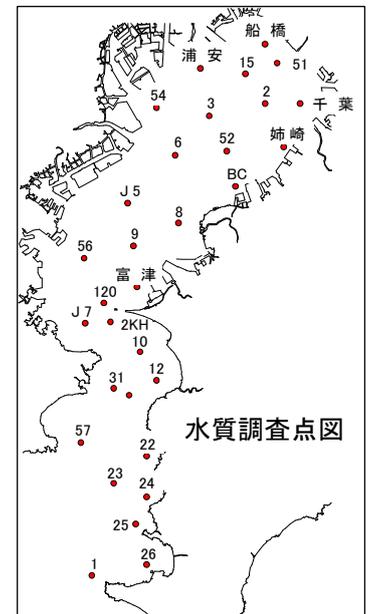
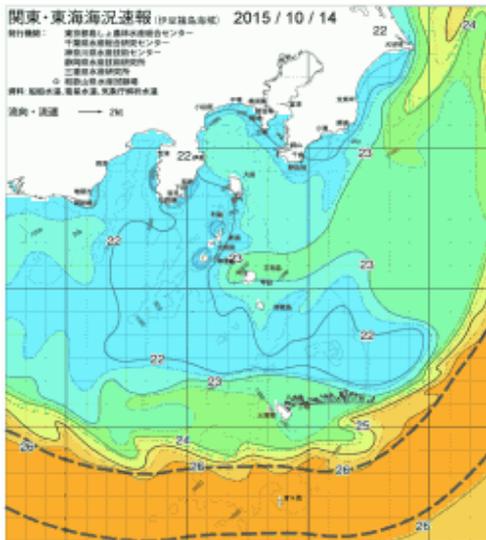


図8 黒潮の動き (平成27年10月14日)

表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)
(): 最近10年間の平均値 (2003~2012年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)
内湾	船橋	22.2 (22.5)	29.86 (30.47)	2.0 (2.2)	8.5 (8.3)	6.1 (2.1)	5 (63)	83 (214)	8 (33)
	st.15	22.2 (22.3)	30.26 (29.95)	2.0 (2.2)	8.5 (8.4)	5.2 (1.7)	5 (23)	63 (140)	12 (16)
	st.3	22.3 (22.1)	31.02 (29.37)	3.0 (2.9)	8.4 (8.4)	1.1 (1.2)	11 (55)	93 (306)	23 (21)
	st.6	22.3 (22.0)	31.52 (29.98)	3.9 (3.1)	8.3 (8.4)	3.1 (2.2)	16 (28)	143 (183)	28 (15)
	st.9	22.1 (22.1)	32.29 (30.10)	4.3 (4.2)	8.3 (8.4)	3.1 (3.3)	10 (31)	154 (191)	33 (19)
	st.BC (盤洲Cブイ)	22.2 (23.0)	31.66 (30.69)	3.6 (2.6)	8.3 (8.4)	2.4 (2.8)	52 (27)	199 (118)	43 (22)
	st.8 (盤洲A南)	22.2 (22.2)	32.09 (30.71)	3.8 (3.5)	8.2 (8.3)	2.8 (2.7)	25 (38)	183 (165)	38 (24)
	富津	21.6 (22.2)	32.81 (30.99)	4.2 (4.9)	8.2 (8.2)	3.3 (3.7)	36 (51)	210 (216)	34 (22)
内房海域	st.2KH (第2海ほ下)	20.6 (22.3)	32.41 (31.83)	4.5 (5.5)	8.3 (8.2)		18 (40)	98 (181)	20 (22)
	st.31	20.7 (22.5)	32.70 (31.91)	6.5 (8.0)	8.3 (8.2)		21 (22)	93 (125)	18 (16)
	st.23	21.8 (23.2)	33.48 (32.97)	10.5 (12.2)	8.2 (8.2)		10 (15)	24 (70)	5 (7)
	st.1	21.8 (23.6)	33.75 (33.32)	9.0 (15.7)	8.2 (8.2)		45 (19)	61 (43)	11 (5)
	st.10 (下洲沖)	20.5 (22.5)	32.63 (31.99)	5.0 (5.1)	8.3 (8.3)		12 (29)	78 (150)	16 (15)
	st.12 (湊沖)	20.9 (22.6)	32.70 (31.96)	6.0 (5.3)	8.3 (8.2)		4 (21)	18 (112)	8 (14)
	st.22 (保田沖)	21.6 (23.3)	33.33 (33.23)	9.0 (12.2)	8.2 (8.2)		8 (17)	18 (45)	6 (5)
	st.24 (富山沖)	21.7 (23.4)	33.48 (33.34)	12.0 (12.6)	8.2 (8.2)		22 (15)	34 (37)	8 (4)
	st.26 (館山湾内)	21.8 (23.8)	33.51 (33.60)	7.0 (13.1)	8.2 (8.2)		44 (16)	54 (31)	13 (4)

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。